

第21回 まちのカルチャーカフェ

「はけの学校」連続講座 野外編

はけの地図を歩こう

国分寺や小金井から南に行くと必ず出会う坂道が、「はけ」と呼ばれる河岸段丘の一部。古代から現代まで、人々の生活を支えてきた「はけ」を、地形図や古地図を眺めながら実際に歩き、私たちの未来を考えてみましょう。

案内人：はけの学校

話す人：椿 真智子 さん (東京学芸大学教授 地理学)

日時

5月19日(土) 13:30 ~ 16:30

(受付開始 13:00 出発 13:30) ※小雨決行荒天中止

集合

東京学芸大学正門キャンパスマップ前

参加費

一般：1000円 学生：500円

定員

15人 先着順

問い合わせ

NPO 法人東京学芸大こども未来研究所
Mail : machicafe.net.2018@gmail.com
HP : <http://www.codomode.org>

●参加には申し込みが必要です●

▼下記のQRコードよりお申し込みください。

<https://ssl.for-m-mailer.jp/fm/s/dbdd4f0f568343>



▲申し込みはこちらから

●「はけの地図を歩こう」主な散策コース



東京学芸大学を出発して、はけ上はけ下を散策しながら、地形図や古地図に現在の場所や、気づいたことの説明を記入して、自分の散策マップをつくっていきます。最後、環境楽習館にてお茶をしながら、みなさんが歩いてみてはじめて発見したことなどを大きな地図に記入してみたいと思っています。

※当日コースは、変更になることがあります。

●「はけの学校」について

武蔵野台地を古多摩川の流れが削り取ってできた河岸段丘である国分寺崖線は、湧き水と緑をたたえつつ立川から大田区まで約 30Km も連なり、東京都の景観基本軸にも指定されています。この崖の連なりを地域の人々は親しみを込めて「はけ」と呼んでいました。はけの学校は、この「はけ」の情報をアーカイブしつつ、崖線歩きやシンポジウムの企画、地図制作などを通して、周辺の地域連携を進めています。

●椿 真智子さん

東京学芸大学教授（専門は文化・歴史地理学）。風土に根差した地域文化や、多民族社会とエスニック文化、移民、フロンティア、景観が主な研究テーマ。地域固有の文化の意味と持続性・継承性を重視し、文化地理ゼミの学生とともに大学キャンパスや周辺地域で市民向けスタディーツアーを実施してきた。

まちのカルチャーカフェとは

街には多様な人が住んでいます。そこに住んでいる人の生活習慣や好みによって街の文化が形成されます。一方で大学には、様々な知識が蓄積されていて、学びの場があり、文化につながる要素があります。そんな街と大学がつながるとどんな化学反応がおこるのでしょうか？

「まちのカルチャーカフェ」は、まちと大学をつなげる試みです。まちの人と大学の人々がひとつのテーマで話をするすることで、新しい発見や次の動きを誘発することを期待しています。一方的ではなく、お茶を飲みながら、時にはお酒を飲みながら、気楽な気持ちで興味のおもむくままに、会話を重ねることで、思いもなかった街の文化が生まれることを期待しています。

2016年6月より、毎月1回、教育、人文、社会、自然、芸術、スポーツなど様々なジャンルの中から興味のあるテーマを選び、自分たちの暮らしとの関わりを大事にしながら、参加者といっしょに話をするライブスタイルで開催しています。

これまでの「まちカフェ」はこちらをご覧ください。 <http://codomode.net/machicafe/>